

令和4年度 氷見市教育総合センターだより 第6報

第2回 教育総合センター運営委員会 1月19日（木）

本年度も皆様方のご理解とご協力の下、教育総合センターの事業を実施してまいりました。ご支援いただき、ありがとうございました。第2回教育総合センター運営委員会でもいただきましたご意見の一部を紹介します。



○研修について

- ・菊池先生の講演がよかった。また、当日書籍を手にすることができたこともよかった。
- ・幼保小接続については、氷見市としてカリキュラムが統一されていて、幼保と小学校の両方の思いが反映されており、少しずつ歩み寄っていると感じた。
- ・研修制度が新しくなるので、センターの研修がどのように位置付くか、早めに情報提供してほしい。
- ・ICT活用のように、実際に見て学べる方法が増えれば、効果的だと思う。研修をいかに広めるか、方法を工夫していくことも大切だと思う。

○ICT教育の推進に向けて

- ・ICTサテライト研修会では、いろいろなソフトについて学ぶことができた。手軽に質問でき、管理職も共に学べる機会であった。
- ・「まなびポケット」は、とてもよい。全部一つの入口から入れて、教える方も教えやすい。
- ・ICTの授業づくり研修会等、指導案だけではなかなか伝わらない部分がある。若手教員も増えているので、一部だけでも画像、データベース等で授業参観できるとよい。
- ・タブレット使用頻度には偏りがあるので、各担任の力量に任せていてよいのかと思う。ある程度の学年の目安が必要ではないか。

○その他

- ・「ひみっ子の夢と希望」きらめき推進事業は、本物の芸術に触れるよい機会であった。
- ・「ネット対策フォローアップ事業」はありがたかった。子供たちは、自分たちの実態から危機感をもって集中して聞いていた。
- ・全国学力・学習状況調査の結果について、学力向上推進チームの研修で、自校だけではみえない分析や実態を知り、これを基に校内で広めることができた。
- ・「教育論文・教育実践記録の書き方研修会」の開催のおかげで、応募者は早くから執筆に取り組むことができた。
- ・これからの教育を支える若い先生方の考えや意見を、ぜひ取り入れていただきたい。

第2回 氷見市いじめ問題対策連絡協議会

2月14日（火）開催

会議では、まず氷見市の生徒指導上の諸課題に関する現状やいじめ防止対策の取組等について説明を行いました。

その後の協議では、富山県教育委員会発行の「改訂版いじめ対応ハンドブック」の研修資料を使い、グループで事例検討を行いました。「児童生徒理解・見立てと手立て⇒未然防止策」という流れで話し合いました。多角的な児童生徒理解や学校全体でのチームとしての対応、関係生徒への継続的な関わりが大切であるなど、それぞれの立場から様々な意見が出されました。

西部教育事務所指導主事 谷井貴征先生の助言では、事例について考える際のポイントを教えていただきました。様々な方面から情報を集めて児童生徒理解を深めること、加害者の背景等への理解を進めること、チームで対応することのよさ等、実際の対応につながるお話でした。また、いじめ問題の未然防止に向けたポイントについても教えていただきました。

児童生徒をいじめの被害者にも加害者にもさせないよう、いじめ問題の未然防止に向けた関係機関の連携を日頃から培っていくことの大切さも確認することができました。



氷見市ネット対策フォローアップ事業

「学校ネットルールづくり講演会」

12月8日（木）：朝日丘小学校・十二町小学校

12月9日（金）：南部中学校

講師：ソーシャルメディア研究会 チーフ技術指導員 竹内 義博 先生

児童生徒のネットトラブルの防止を目的とした「学校ネットルールづくり講演会」を朝日丘小学校（十二町小学校と合同）、南部中学校で実施しました。

○ 朝日丘小学校・十二町小学校（12月8日）

両校の5、6年生88名が参加し、講師の竹内先生から「正しく怖がり、賢く使う」というネットとの上手な付き合い方等を教えていただきました。ネットの危険性をまとめた動画や事前に行ったアンケート結果を基にしたネット利用の改善点等について、メモを取りながら熱心に耳を傾ける姿が多く見られました。



○ 南部中学校（12月9日）



1年生40名が参加しました。竹内先生からは、動画や実際にあった事例の紹介等をいただき、ネット利用の危険性について理解を深めました。また、事前に行った生活アンケートの結果で気が付いたこと等をグループで話し合いました。自分自身のネット利用について見つめ直すきっかけとなり、ネットを賢く使っていこうという意識が高まったようでした。

第2回 ICT教育推進プロジェクト会議

2月22日（水）

指導助言：富山大学大学院教職実践開発研究科 准教授 長谷川 春生 先生

本年度のICT教育推進に関する取組を振り返り、次年度の方向性等について意見交換を行うため、ICT教育推進プロジェクト会議を開催しました。会議では、センターからICT活用推進に向けた研修会等の取組について、市の担当者からICT環境整備等について説明しました。その後のグループ協議では、各校のICT教育推進委員が今年度の振り返り等の意見交換を行いました。

全体協議では、Microsoft Teams、Formsの活用事例や小学校でのプログラミング教育の進め方、校内で実施した研修の成果や課題等、多くの意見が出ました。また、教育ソフト関連企業の方々からも、次年度に向けての提案等をいただきました。ICT教育推進委員長からは、GIGAスクール構想の実現に向けて一気に進んだICT活用については、まだまだ手探りの部分もあるが、とにかくやってみることが大事ではないかというお言葉をいただきました。



長谷川先生からは、各校の取組について助言をいただくとともに、今後のICT活用推進に向けて、特に以下の点について教えていただきました。

- 今年度の三つの公開授業のうち、二つはプログラミングの実践であったことがすばらしかった。中学校国語科での活用も、生徒が表現するためにICTを活用するよい場面であった。
- 各校で推進計画を立て、確実に評価をしている点がすばらしい。「まなDX氷見」での事例紹介は、活用が得意でない先生方にとっても有効である。つながりをつくるための今日のような会議も大切だ。
- ICTを校務の効率化に向けて活用してほしい。若い先生方が先輩の先生を引っ張っていく立場になり、積極的に働きかけをして、学校を変えてほしい。
- 真の主体的な学びを実現するには、学びの在り方自体を子供に任せてもよいのではないかと感じている。一つの取組として、単元の自由進度学習があり、県内でも実践されている。教師は補助資料やプリント類の準備、学ぶスペースの工夫、個別指導等を行い、子供は自分の計画に基づいて学びを進める。ICTを活用し、とてもよい学びの時間になっている。
- ICTは、教科の学習だけではなく、特別活動等でも活用が進んでいる。

本年度の成果や課題を生かし、今後もICTの効果的な活用に向けた取組を進めたいと考えています。

学力向上に向けた「具体的な実践策」の取組

（「全国学力・学習状況調査の活用に向けて」ワークシートより）

各校では、全国学力・学習状況調査の結果を活用し、教員の指導方法や児童生徒の学習の改善につなげるという視点から、「具体的な実践策」を策定し取り組んでいます。その一部を紹介します。

学校名	「具体的な実践策」の取組（内容を抜粋したもの）
朝日丘小	自ら思考するための学習活動 ○考えるための技法（比較、分類、整理等）や思考ツールを使って、考えを可視化したことで、順序立てて考えたり、内容を取捨選択したりする力が伸びた。
比美乃江小	書く活動 ○振り返りの視点や書く活動の条件を提示し、書く活動を継続して行ったことで、条件に合わせて、時間内に活動を終える児童が増えた。
宮田小	授業改善 ○全校で授業における「対話」を重視し、授業実践を重ねたことで、どの教科のどんな場面で対話場面を設定すれば効果的であるかが明らかになってきた。
窪小	読むこと ○物語では、登場人物の会話や行動等に着目し、アンダーラインを引くなど、叙述を基に心情を考える習慣を付けることで、心情の変化を捉えることができた。
湖南小	授業改善 ○算数科や理科において、操作や実験・観察を多く取り入れ実感を伴った学びになるようにしたことで、子供たちの学習意欲が高まった。
十二町小	基礎的・基本的な学習内容を定着させるためのパワーアップ教室 ○毎週木曜日の放課後に設定している「パワーアップ教室」で、学習のつまずきへの個別指導を実施したことで、基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることができた。
上庄小	基礎学力の確立 ○テーマに沿って考えを書いたり振り返ったりする「読書貯金」の活動を継続して実施したことで、テーマを決めて読書することのよさを実感する児童が増えた。
海峰小	家庭学習の充実 ○「家庭学習頑張り週間」を学期に2～3回実施し、自主学習ノートの紹介や課題の出し方を工夫し家庭学習の意欲を高めたことで、目標時間を達成することができた。
灘浦小	個に応じた支援 ○少人数の強みを生かし、きめ細かな机間指導で一人一人の学習状況を見取り、理解が十分でない内容について個に応じた支援を行うことで、着実な理解につなげた。
西の杜学園 （前期）	読むこと ○大切な情報や条件のポイントに線を引いたり、印を付けたりしたことで、登場人物の描写に着目しながら関係性を捉え、物語を読み進めることができる児童が増えた。
南部中	基礎・基本の定着 ○各教科の学習用語を用いて、学んだことや考えたことを文章化することが学習習慣として身に付いてきた。
北部中	自分の考えをもつための場の充実 ○授業での帯学習や基礎的演習を通して、話し合い活動の充実や考えをまとめる書く活動を工夫したことにより、生徒が考えをもつことや深めることにつながった。
十三中	学び直しや帯学習の充実 ○単元ごとに既習学習の学び直しを丁寧に行い、計算コンテストの練習プリントや帯学習を継続して行うことによって、数学的な技能の向上がみられた。
西條中	学び合い、高め合う良好な学習集団づくり ○「二者択一」や「アドジャン」といった対人関係ゲームの取組は、自分や相手のよさに気付き、受容的な雰囲気をつくるために有効であった。
西の杜学園 （後期）	話すこと・聞くこと ○聞き手と話し手の立場で意見を相手に伝える活動を設定し、どのような立場で何を伝えるのかを意識させることで、表現の工夫の必要性を考えさせることができた。

※各校の取組の詳細は、＜小中共通フォルダ＞ → ＜教育総合センター＞ → ＜14-全国学力・学習状況調査関係＞に保存してありますので、参考にしてください。

「ふるさと氷見」HP の更新

今年度、調査研究委員会で HP「ふるさと氷見」を更新しました。内容の追加や写真・データの差し替え、解説文の導入等です。

「郷土の発展に尽くす」では、「南 弘」「矢崎 嘉十郎」について写真等を掲載し、その功績を紹介しました。また、広域となった高岡市消防本部氷見消防署や 10 月に開館した氷見市芸術文化館について内容を新しくしました。さらに、稲積梅やマコモタケ、リング等、地域素材を教材とした小学校の取組も掲載しました。

ふるさと教育の推進に向けて、豊富な写真や音声データ、動画等をご活用ください。※次年度は「ふるさと氷見」(冊子)改訂の予定です。



地域に学ぶ子供たち

第 2 回 幼・保・小 接続教育研修会

1 月 3 1 日 (火) 開催



本研修会は、氷見市子育て支援課と合同で開催しています。今年度、富山県の接続推進事業に取り組まれた上庄小学校区の実践発表を聴き、具体的な取組のヒントを得ることができました。その後、氷見市版「スタートカリキュラム(案)」を使って話し合いました。4 月当初に子供たちが安心して小学校生活を送れるよう、校区ごとに具体的な子供の姿を想定して理解を深めました。

***** 「子供の育ちをつなげる」グループ協議から *****

- ・園では自分で選択できる環境が整っている。小学校でも子供たちが主体的に活動できる環境づくりに取り組んでいきたい。
- ・複数の園から子供たちが入学する。4 月にみんなで同じ歌を歌うことで、親しみや安心感が増すように校区の幼・保・小で共通の歌を決めた。
- ・ゆったりとした時間の中で過ごしてきた子供たちが抵抗なく活動できるよう、活動時間のもち方や声かけの仕方等、具体的に考える機会となった。

おすすめ図書 の 紹 介 —今年度の貸し出し冊数は 171 冊 (2 月現在) —

教育総合センターでの会合や研修会後に多くの先生方に教育図書を借りていただきました。2 月末時点での貸し出し冊数は 171 冊です。これは、昨年度の 2 倍以上です。(昨年度 86 冊) これからも積極的にご活用ください。

■『白熱する教室』に上庄小学校の実践が掲載されました！

教育セミナーで講師をしていただいた菊池省三先生監修の菊池道場機関紙『白熱する教室』に上庄小学校の実践が紹介されました。子供たちや教職員のよさを積極的に見付け、価値付け、広めながら自尊感情を育み、活動意欲を高める取組です。写真も豊富で、日々の地道な取組が伝わってきます。『白熱する教室』には、全国の熱い実践が満載で、どこから読んでも参考になります。



- ★新しく ICT 教育関係の図書や次年度予定しているセンター研修についての関連図書が入りました。お気軽にお立ち寄りください。